



森林 GIS フォーラム東京シンポジウム

「DX 時代に対応した森林基盤データのあり方」

主催：森林 GIS フォーラム <https://fgis.jp/>

後援：林野庁、森林総合研究所、森林計画学会

日時：2025 年 2 月 20 日（木） 10:00 ～ 16:40

場所：鉄鋼会館 701、801 会議室（〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10）

<<プログラム>>

■ 受付 9:30～

■ 賛助会員等による森林 GIS のデモ 10:00～16:00（701 会議室）

- ・ アジア航測株式会社、株式会社アドイン研究所、ESRI ジャパン株式会社、株式会社ジッタ、株式会社竹谷商事、一般社団法人日本森林技術協会、パシフィックコンサルタンツ株式会社、株式会社パスコ、ヤマハ発動機株式会社、標準仕様分科会

■ シンポジウム 10:00～16:40（801 会議室）

●10:00 開会あいさつ

● 講演

10:10-10:30 次期の森林資源情報の管理・更新手法の検討

室木直樹（林野庁森林整備部計画課）

10:30-10:50 民有林管理に係る市町村の意思決定を支援するツールの開発

鷹尾元（森林総合研究所関西支所）

10:50-11:10 過去の空中写真もなかなかやります：時系列空中写真を用いた森林の履歴の把握

村上拓彦（新潟大学）

11:10-13:30 休憩（賛助会員デモンストレーション）

13:30-13:50 兵庫県の森林資源情報とメッシュデータ化について

土佐達郎（兵庫県農林水産部林務課）

13:50-14:05 森林情報プラットフォームとしての森林クラウドの役割について

斎藤 昌（株式会社パスコ）

14:05-14:20 オープンアクセスを提供する ArcGIS プラットフォームと今後の展望

丹羽湧輝（ESRI ジャパン株式会社）

14:20-14:30 小休憩

- 14:30-15:30 パネルディスカッション（コーディネータ 高橋正義（森林総合研究所））

15:30-15:40 小休憩

- 15:40-16:25 賛助会員による話題提供

- ・ 株式会社アドイン研究所
- ・ 一般社団法人日本森林技術協会
- ・ パシフィックコンサルタンツ株式会社

- 16:25-16:40 閉会あいさつ

- ・ 閉会后（16:40-17:15）、シンポジウム会場（801 会議室）にて名刺交換の時間を設けております。
- ・ シンポジウム等への事前の参加申し込みは不要です。

森林 GIS フォーラム東京シンポジウム

「DX 時代に対応した森林基盤データのあり方」講演要旨

次期の森林資源情報の管理・更新手法の検討

室木直樹（林野庁森林整備部計画課）

航空レーザ計測やクラウドシステムの導入など、技術の進展に伴う“新しいもの”は森林分野でも随時の導入を進めてきましたが、さまざまな技術が台頭し、取り得る選択肢が増えた現在において、技術利用の棚卸しと将来展望が必要であると考えています。林野庁では、令和7年度より、森林資源情報のオープンデータ化をより一層強力に進めていきますが、このデータも用いつつ、これまで開発してきたツールや実証事業の内容も踏まえ、次期の森林資源情報の管理・更新手法がどうあるべきか、という論点提示を行います。

民有林管理に係る市町村の意思決定を支援するツールの開発

鷹尾元（森林総合研究所関西支所）

森林経営管理制度の下で、市町村が管内の手入れ不足の民有人工林を抽出し、山地災害危険性の観点から施業の方針を決めることを支援する一連の技術を、航空機レーザ計測データなどの基盤データを活用して開発しています。開発された技術の実装と評価には、最終利用者である市町村ばかりでなく様々なセクターが関わります。開発から実装に繋ぐ柔軟な情報基盤が期待されます。

過去の空中写真もなかなかやります一時系列空中写真を用いた森林の履歴の把握

村上拓彦（新潟大学）

日本には、使用可能な空中写真が1940年代から存在する。モノクロ空中写真であっても、どこにどれぐらいの伐採地が存在していたのか把握することは可能である。過去の空中写真は現在においても十分に価値ある情報を提供する。空中写真の蓄積は時系列デジタルツインや4次元GISの実現を可能にする。しかし、山間地域の空中写真はオルソフォトとして公開されているわけではないので、利用の機会が乏しい。現在取り組まれているプロジェクトを紹介しつつ、森林基盤データとしての過去の空中写真について話題提供したい。

兵庫県森林資源情報とメッシュデータ化について

土佐 達郎（兵庫県農林水産部林務課）

兵庫県では、これまでに、①森林クラウドシステムの導入と②航空レーザ測量成果を活用した高精度な森林資源情報の取得を行ってきました。

現在、これらの情報を継続的に更新できるよう、林野庁の取り組みや「森林資源データ解析・管理標準仕様書」を参考に、10m×10mのメッシュデータ化を進めています。

本発表では、兵庫県の森林資源情報とメッシュデータ化により期待される効果について発表し

ます。

森林情報プラットフォームとしての森林クラウドの役割について

齋藤 昌（株式会社パスコ事業統括本部 森林プロジェクト推進部）

パスコでは 2016 年に森林クラウドサービスの提供を開始してから 8 年が経過しました。

当初は、既存で使用されている森林 GIS の継続的利用を目的とした機能の開発がメインでしたが、近年では森林クラウドの運用の在り方を大きく見直しております。特に森林情報プラットフォームとしての役割を重視し、データの標準化とクラウドを活用した申請手続きへの移行を推進させて頂いており、その中での課題等について発表いたします。

オープンアクセスを提供する ArcGIS プラットフォームと今後の展望

丹羽湧輝（ESRI ジャパン株式会社）

ArcGIS は地理情報データ形式、メタデータ、サービスなど、国際規格に準拠した 100 以上のオープン標準をサポートしており、オープンで開かれたプラットフォームを提供しています。ArcGIS プラットフォームにより、森林情報と関連情報（衛星画像・気象情報・地形データなど）をオープンな形式で配信し、あらゆる環境（デスクトップ・モバイル・Web ブラウザなど）での利用を可能にします。海外諸国の動向を交え、オープンプラットフォームの現状と今後についてご紹介します。